

# AGU NEWS

青山学院大学

Vol.  
16

AGUニュース第16号  
[2003年3月~4月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
TEL.03-3409-8111 (代表)

URL: <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



C棟 チャペル (相模原キャンパス)



間島記念館 (青山キャンパス)

特集  AOYAMA  
GAKUIN  
UNIVERSITY

**学長メッセージ** 卒業される皆さんへ  
青学生の活躍がキャンパスを超えた!

**TOPIC**  
相模原キャンパス、開学直前 WATCHING!

## 報告・お知らせ

新規交換留学協定校について  
2003年度首都圏父母懇談会  
アドバイザー・グループ登録のご案内

## 誌上公開講座

vol.16 幼児の心の教育

## INFORMATION

2003年度公開講座  
就職関係行事のお知らせ  
青山学院大学教育ローン  
2003年度オープンキャンパス等開催日程  
2003年度一般入学試験出願者数

人を知り、和をもつて貴しとなす  
 和をもつて貴しとなす  
 自分を知らせる努力を

学長 半田 正夫

特集 卒業される皆さんへ

青山学院大学に籍を置き、すでに30年以上……。その間、東京都内の法学部を持つほとんどの大学で教壇に立った経験がありますが、他大学と本学の学生を比較すると、都会的なセンスや明るさ、思いやり、目上の人に対する礼儀が格段に備わっている印象を受けます。さらに、思いやりの心をもった、非常に素直な学生が多いこともあって、卒業生はどの企業でも歓迎され、上司や先輩、同僚から信頼を得ているようです。

ただ、近年の学生には、他者とのコミュニケーションが苦手で、今ひとつ協調性に欠ける面が感じられます。私は、聖徳太子十七条憲法の第一条「和をもって貴しとなす」を座右の銘としており、学生にも機会があるごとにその精神について話をしてきました。「大学では一生涯付き合っていくべき友だちをつくるべき。そのためには引込み思案になるのではなく、積極的に自己アピールする姿勢をもとう。」「和」とは集団の中に埋没してしまうことではありません。青学生には思いやりの心がある一方、少しおとなしすぎるきらいもあります。社会では、もっともっと強烈に自己アピールしてほしい、私からの注文はこの一点です。

そして今、大学にも自己アピールが求められる時代です。本学におき

ましては、2003年4月にいよいよ、文理融合型の相模原キャンパスを開学。新たな全学共通教育システム「青山スタンダード科目」を設置し、学部・学科に関係なく本学学生として修得しておくべき一定レベルの知識・教養の養成を図っていきます。全国的にもあまり例のない取り組みであり、その成果には大きな注目が集まっています。

また2002年秋には、文部科学省が推進する「21世紀COEプログラム」〈化学・材料科学〉分野において、「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」が研究教育拠点として選定されました。さらに「国際マネジメント研究科」(専門大学院)の拡充をはじめ、法科大学院の設置計画なども着々と進行しております。今後も社会に、そして世界に、本学の存在をよりいっそうアピールしていきたいと考えています。

新時代に向け、青山学院大学は着実な発展をとげています。卒業生のみならず、それぞれの分野で持てる力を大いに発揮し、輝かしい未来を切り拓いてください。教職員一同、心より応援しています。

半田正夫

卒業後も続く青山学院との絆

本学院では、青山学院校友センターを中心に、卒業生に対する各種サービス・情報提供を実施しています。卒業しても、あなたは青山学院の一員です。

青山学院校友センター

窓口案内

「青山学院校友センター」は青山学院の卒業生に関する業務を行っており、青山学院と卒業生のみなさんを結ぶ窓口の役割をしています。また、青山学院の卒業生全員が会員となる「社団法人青山学院校友会」の本部事務も担当しています。

卒業生相互の親睦に関わる業務として同窓会、全国各地の地方支部および海外支部、各種OB会、クラス会等の紹介、取次を行っています。また、全ての卒業生に情報誌(AOGAKU Chimes)を送付して学院の近況、卒業生の活躍などをお伝えしています。

その他の主な業務としては青山学院維持協力会の入会申込、青山学院カードの申込受付、校友会各支部連絡先紹介、校友会集会所利用の申込受付、卒業生の情報収集等です。

以上の活動には卒業生の基本情報が不可欠です。住所等の個人情報管理には細心の注意を払っておりますので、住所や氏名などの変更がありましたら、必ず下記青山学院校友センターまでご連絡ください。



第3号表紙

「AOGAKU Chimes」(あおかくチャイムズ)のご案内

青山学院卒業生全員を対象に情報誌「AOGAKU Chimes」を発行しています。青山学院と卒業生の方々の絆を強める活動の一環として、青山学院の情報を全卒業生に等しく伝えることと、積極的な情報の発信を目的としており、現在は年1回の発行ですが、将来は発行回数を増やすことも検討しています。

最新の第3号(2003年1月発行)には青山学院に関する音楽、青山学院の校地・校舎の紹介、活躍している卒業生や現任教員へのインタビュー、校友会関係の活動の案内、学校界隈の情報等を掲載しています。

発行は青山学院校友センター、青山学院広報室、青山学院校友会の共同で進めています。今後、より充実させていくためにも卒業生のみなさんの幅広いご意見を是非お寄せください。

※青山学院校友センターは「アイビーホール青学会館2階」にありますのでどうぞご利用ください。

卒業後の連絡先一覧

	担当事務局	お問い合わせ先	備考
青山学院へのアクセス		03-3409-8111 (大代表) http://www.aoyama.ac.jp	8:00~18:00(平日)、 土曜は16:00まで。
卒業・成績証明書の受付	学務部教務課	03-3409-7830 (ダイヤルイン)	人文・社会科学系学部対象 ※第二部(夜間部)を含む
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6003 (ダイヤルイン)	理工学部・理工学研究所対象
	大学院事務局	03-3409-7831 (ダイヤルイン)	人文・社会科学系大学院対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025 (ダイヤルイン)	国際マネジメント研究科対象
科目等履修生案内	学務部教務課	03-3409-7830 (ダイヤルイン)	人文・社会科学系学部対象 ※第二部(夜間部)を含む
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6003 (ダイヤルイン)	昼間部全学部・ 理工学研究所・教職課程対象
	学務部教職課程課	03-3409-9634 (ダイヤルイン)	教職課程対象
基礎資格および単位修得証明書の受付	大学院事務局	03-3409-7831 (ダイヤルイン)	人文・社会科学系大学院対象
	学務部教職課程課	03-3409-9634 (ダイヤルイン)	
	学生支援ユニット学務グループ(※) (教職課程担当)	042-759-6032 (ダイヤルイン)	免許状授与と証明書は、教育庁へ お問い合わせください。
公開講座案内	庶務部学長事務局(公開講座担当)	03-3409-7955 (ダイヤルイン)	4月上旬より「2003公開講座 GUIDE BOOK」を配布予定です。
図書館の利用	図書部運用課図書係	03-3409-7858 (ダイヤルイン)	
	教育・学習支援ユニット図書グループ(※)	042-759-6027 (ダイヤルイン) http://www.agulin.aoyama.ac.jp	卒業生の図書資料の貸出には、 利用カードの申請が必要となります。
大学院案内	大学院事務局	03-3409-7831 (ダイヤルイン)	人文・社会科学系大学院対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025 (ダイヤルイン)	国際マネジメント研究科対象
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6033 (ダイヤルイン)	理工学研究所対象
キリスト教に関する相談(教紹介など) 住所・氏名変更連絡先	宗教センター(開島記念館1F)	03-3409-6537 (ダイヤルイン)	E-mail agcacc@cc.aoyama.ac.jp
「青山学報」定期購読の受付 「青山学院カード」の申込受付 「青山学院維持協力会」の入会受付 校友会支部連絡先紹介 校友会集会所利用の申込受付 校友会総会への出席受付	青山学院校友センター ※青山学院校友会本部事務局を兼ねています (アイビーホール青学会館2F) 卒業生向け校友会ホームページ http://www.alumni-aogaku.or.jp	03-3409-6645 (ダイヤルイン) 03-3409-9773 (ダイヤルイン) FAX 03-5485-3616	E-mail agkyou@jm.aoyama.ac.jp alumni@jm.aoyama.ac.jp
学院の歴史資料展示	資料センター(開島記念館2F)	03-3409-6742 (ダイヤルイン) FAX 03-3409-8134	青山学院史料展示を一般公開 しています。
寄付の申込受付	総務部庶務課(法人本部1F)	03-3409-6463 (ダイヤルイン)	
大学同窓祭	大学同窓祭実行委員会事務局 (ウェスレーホール3F)	TEL・FAX共通 03-3409-8990 (直通) ※月・水・金のみ	
青山会ネットワークへの加入 (業種別「青山会」問い合わせ)	青山会ネットワーク事務局 (アイビーホール青学会館内/担当:永田)	03-3409-8181 (代表) http://www.ki.rim.or.jp/aokainet	今年6月23日(火・祝)に開催 する予定です。実行委員としてお 手伝いいただける仲間を募集 中です。「青山学院の発展に寄与」 、「会員相互の交流」を目的として 設立された企業人の会。業種別 「青山会」の組織づくりを推進し、 異業種間交流を図っています。
婚礼・合婚施設	ブライダルサロン (アイビーホール青学会館内)	03-3409-8181 (代表) http://www.aogaku-kaikan.co.jp	懇親会・同窓会・クラス会・OB会・ 7/7「ケル・ゼミ」での会合など にご利用ください。校友には、割引 特典があります。

●AGUニュースは、本学ホームページでご覧になれます。 ☎http://www.aoyama.ac.jp/agnnews/  
 (※)相模原キャンパス



# 特集 青学生の活躍が キャンパスを超えた!

本学には、各学部での学びの成果や大学生としての体験を、社会に向けて発信している多くの学生がいます。今回の特集では、そうした学生たちにインタビューし、彼らのアクティブな活動を紹介します。



経営学部4年  
宇高裕美さん  
経営学部4年  
東和人君

## 宇宙開発事業団の 航空機実験テーマで 本学学生が選定される



宇宙開発事業団(NASDA)は、2002年に初めて、全国の高等専門学校・大学・大学院などに在籍する学生を対象として「航空機(パラボリックフライト)を利用した微小重力教育実験」の実験テーマを募集しました。パラボリックフライトとは、放物線運動を行うように航空機を速度調整しながら操縦し、機内に無重力状態を作り出すというもの。ふだんは体験できない無重力状態の中で科学実験を行うわけで、スペースシャトルなどで行われる宇宙実験とほぼ同じ環境です。ただし、ジェット機による無重力の時間は約20秒。その間に実験作業を終わらせる必要があります。

この実験テーマに全国から24件の応募があり、今回選定されたのは、本学のほか、東京大学、お茶の水女子大学、奈良県立医科大学の4大学で、本学は唯一の私立大学でした。実験を担当したのは理工学部機械工学科4年の宮田啓志君と荒木慎也君です。いずれも佐久田博司助教授の研究室に所属している学生で、指導する佐久田先生自身も、10年ほど前にこの実験に参加した経験があります。選ばれた実験テーマは「温度勾配を有するワイヤ上の液滴の挙動観察(Wicking現象の観察)」。荒木君にその実験内容を解説してもらいましょう。「水平に置かれた銅パイプに液滴を付着させ、パイプの一端に熱を加えると、液滴が温度の低いパイプの反対端に動く現象が見られ、これをWicking現象と呼んでいます。ところが、地上では重力や対流などの影響を受け、この現象を正確にとらえることができません。でも、



宇宙開発事業団(NASDA)は、2002年に初めて、全国の高等専門学校・大学・大学院などに在籍する学生を対象として「航空機(パラボリックフライト)を利用した微小重力教育実験」の実験テーマを募集しました。

街の文教的性質を守るためのシンボルにする。発表を終えた学生たちは、「綿密に積み上げられたデータの説得力を、改めて実感できました」(石井君)、「他大学のアイデアと比較して、自分たちの構想が多くの調査データを踏まえた、より現実性のあるプランだったという自信があります」(東君)。「道玄坂方面のぎやかさと青山方面の落ち着き、それぞれの良さを今後も残せたいですね」(宇高さんと、感想を聞かせてくれました。計画が採用されれば、モニタメントの設置は約10年後の予定。東君の「完成したら、家族を連れて見に行きたい」という言葉に、学生たちの期待と自信がうかがえます。2003年2月、井口ゼミナールは「きれいなまちづくり功労者」として、渋谷区きれいなまちづくり推進協議会より感謝状を贈られました。

## 渋谷再開発計画構想を 学生グループが発表



パラボリックフライトによる微小重力下なら、液滴の挙動をはっきりと観察できるはず……そう思ったのが今回応募した理由です」実験には、20秒という時間以外にもさまざまな制約があり、宮田君は実験を成功させるための工夫をこのように語っています。「まず、機内の決められたラックスペースに実験装置を取ることが難しかった。そして、装置を全自動化することが大きな課題でした。なぜ自動化が必要かというと、無重力になる直前、機内には2Gもの重力がかかり、自由に体を動かすことができなくなってしまうからです」そして、2002年12月19日(木)~21日(土)の3日間、二人は小牧空港から飛び立って、日本海沖で無重力での実験を敢行。初日は、装置の調整を行い、2日目・3日目と順調に実験を成功させることができました。「実験中、初体験の無重力状態を楽しんでいました(笑)。まるで水に浮かんでいるような気分なのに、周りに水がない……無重力とは

そんな不思議な感覚です」(宮田君)4月から、いずれもシステムエンジニアとしての道を歩み始める宮田君と荒木君にとって、無重力体験は大学生として最後の思い出となったのかもしれない。●本実験の模様は宇宙開発事業団(NASDA)のホームページ(<http://jem.tksc.nasda.go.jp/education/parabolic/>)にて詳細を見ることができます。



左より情報テクノロジー学科 佐久田博司 助教授、理工学部機械工学科4年 荒木慎也君、理工学部機械工学科4年 宮田啓志君  
※理工学部は2000年4月、機械工学科、経営工学科を改組し、新しく機械創造工学科、経営システム工学科、情報テクノロジー学科を開設しました。



青山学院大学チーム

経営学部・井口典夫ゼミナールの学生グループが、渋谷駅周辺の再開発計画に関する独自の構想を立案し、「第3回渋谷まちづくりシンポジウム」において、東京大学、國學院大学のグループとともに発表しました。「青山の丘の上から」と題したこの計画は、4年生の東和人君、石井健君、宇高裕美さんを中心に、3年生の伊吾田恭子さんら全ゼミ生が協力し、渋谷駅周辺で聴き取



経営学部4年 石井 健君  
経営学部3年 伊吾田恭子さん



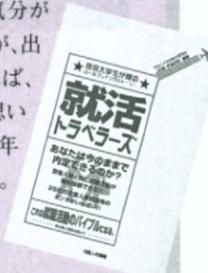
## 後輩に贈る就職本を出版

学生による学生のための就職サイト「JOB PARK」(<http://jobpark.vis.ne.jp>)を運営する経営学部4年の木村憲太郎君が、同サイトの仲間とともに「就活トラベラーズ」(日経人材情報)を出版しました。これは「現役大学生が贈るロールプレイングストーリー」というサブタイトルの通り、早稲田大学など9人の学生の就職活動体験を小説風にまとめたユニークな就職本。執筆はもちろん、挿し絵のイラストや巻末の人事担当者インタビューなどもすべて学生の手によるもので、面接風景や揺れ動く学生の心理が、豊富なダイアログによって臨場感たっぷりに描かれています。就職サイト「JOB PARK」の代表である木村君自身も「木村勝男」の役名で登場。就職活動で奮闘する等身大の姿を披露しています。「マニュアルではなく、自分はなぜ就職するのかなど、これから活動始める学生、活動中の学生が、原点を見つめ直すきっかけになってくれればと思います。登場人物の行動や活動時期など、読者は自分が置かれている立場と照らし合わせながら、参考にしてほしい」と木村君。本を読んだ後輩たちからの評判も上々で、直接相談を受

ける機会も増え、その中には「勝男さんですか!?!」と、本のキャラクターに会えたことを喜ぶ後輩もいて、自分たちがつくった本に対する意外な反響に驚かされることもあるそうです。そんな木村君も、就職活動を始めるまではテニスサークルに熱中する普通の大学生でした。「1年後に本を出版しているなんて、夢にも思っていませんでした。就職活動が転機になってさまざまな人に会い、貴重な体験ができたことは、本当に大きな財産になっています。後輩のみなさんも就職活動を「チャンス」ととらえてください。気分が浮き沈みすることもあります。出会いを楽しむ気持ちがあれば、きっと得られるものがあると思います」と、現在、活動中の3年生にエールを送ってくれました。



経営学部4年  
木村憲太郎君



「就活トラベラーズ」は学内書籍売場、および全国の書店で購入できます。

## 箱根駅伝関東学連選抜チームで 本学学生が健闘



「第79回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)」に、陸上部佐藤良仁君(経営学部2年)が関東学連選抜のメンバーとして出場。本学の箱根駅伝出場は第52回大会(1976年)以来であり、本学選手としては27年ぶりとなる健闘を披露しました。佐藤君は往路第3区(戸塚~平塚間21.3キロメートル)の走者としてエントリー。16番目で受けたタスキを、区間10位となる1時間4分51秒の力で13番目に押し上げ、新春の箱根路に大きく存在感をアピールしました。「沿道の歓声には圧倒されました。序盤に比べたのが響き、5人を抜いたけど、残り5キロで2人に抜かれたので、100点満点中85点くらいの満足度です」とレースを振り返ってくれました。全国高校駅伝大会に2年連続出場するなど、数々の大舞台を経験してきた佐藤君にとっても、箱根駅伝の重圧感はずいぶん大きかったです。夢の舞台を経験することは出来なかったが、「やはり箱根駅伝には、母校のタスキで出場したいものです。予選会突破をめざし、自分がチームを引っ張るくらいの気持ちで練習に打ち込みたい」と、新春の「初夢」実現に段と闘志を燃やしています。



経営学部2年  
佐藤良仁君

# 相模原キャンパス、開学直前 WATCHING!

正門に立つと、正面には陽光きらめくメディアセンター。ケヤキ並木を進むと、右手には小高い丘の上に美しい尖塔を持つチャペルの姿。緑豊かなキャンパスの屋外には、各種イベントが行えるスペースや耳に心地よいせせらぎのある空間があり、建物内のインテリアや設備にも、居心地のよさを感じさせる創意工夫がなされています。多くの建物に囲まれながらもゆとりと安らぎを与えてくれる相模原キャンパスは、開学後に学生たちが織りなすドラマを十分予感させます。ここで紹介するのは、そうした新キャンパスの魅力のごく一部に過ぎません。



B棟(メディアセンター)9Fよりキャンパスを望む



F棟(教室棟)



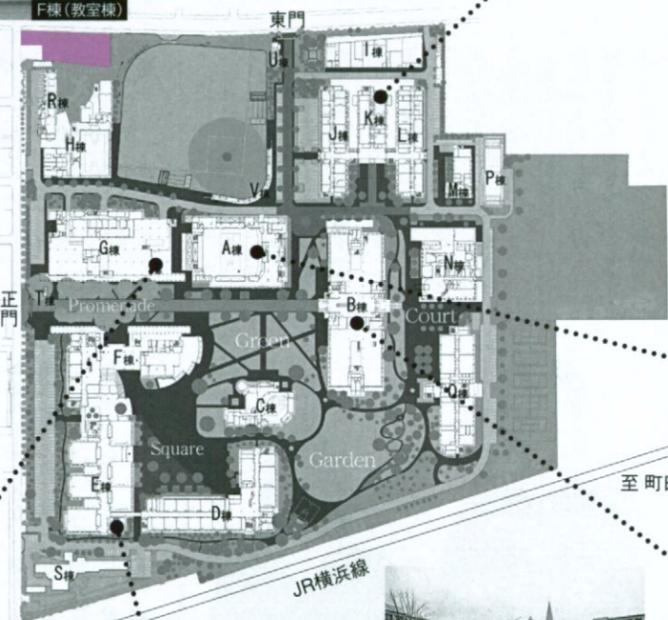
Promenadeより正門方向を望む



F棟(学生ラウンジ)外観



教室棟前大階段



至 淵野辺駅

至 町田

JR横浜線

Square

## ●カフェテリア

1階は、コンビニスタイルや定食スタイル、2階はゆったりと落ち着いた食事ができるカフェテリア。床はフローリングで、木材をふんだんに用いたインテリアが癒いの一ときを演出します。1・2階とも、屋外にはウッドデッキのオープンカフェスペースが設けられ、気持ちよくランチを楽しむことができます。



## ●教室棟

3棟の建物から構成される教室棟には、中・小の111教室を設置。2階以上の小教室の床には暖かみを感じさせるカーペットが敷きつめられ、中教室の中央部には車椅子使用者のための専用座席を用意しました。各所に多数設けられた学生ラウンジは自習、友人との歓談など学生のためのフリースペースです。



## ●理工学部棟

J・K・Lの3棟およびN・O棟は、理工学部と理工学研究科の教育研究スペースです。J・L・N・O棟には、教室をはじめ理工学部各学科の研究室・実験室を設置。そしてK棟には先端技術研究開発センター(CAT)の諸施設があります。2002年に文部科学省から「21世紀COEプログラム」研究教育拠点として選定された「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」をはじめ、ここで研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成に向けた教育・研究が行われます。



## ●アリーナ

バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの対外試合が行えるアリーナ。1階の観覧席(766席)は電動可動式で、公式試合の際などに利用されます。2・3階の観覧席(2階1,017席・3階196席)は、フロアから見ると「AGU」の文字が浮き上がるよう、配色に工夫が施されています。



## ●メディアセンター

学習や学生生活のバックアップを行う学生センター、万代記念図書館のほか、語学教育系や情報教育系の教室、メディアライブラリーなどが設置され、まさにキャンパスの知的情報の中枢を担う建物です。図書館には自動書庫を完備。カウンターに居ながら、コンピュータ制御で地下の書庫に収納した膨大な書籍類の検索および取り出しを行うことができます。



C棟(チャペル)

## お願い

### 相模原キャンパス通学路について

自家用車・バイク(原付を含む)での通学は禁止です。近隣住民の方々の生活環境と安全を守るためにも公共交通機関を使って登校してください。また、自転車用の駐輪スペースには限りがあります。駐輪場使用許可については新年度オリエンテーション期間中に説明しますので、許可を受けるまでは自転車で登校しないでください。



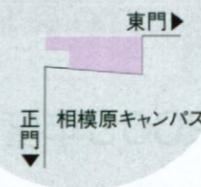
### カフェテリアの利用

カフェテリアはみなさんのためのスペースです。特に昼休みは混雑しますので、席の譲り合いをお願いします。また、この時間帯に、食事以外の目的で座席を占有することや、厚木キャンパスで見られた「サークル席」と称する座席を確保することは認められません。昼休み以外の時間帯は、自習や友人との語らいの場として積極的に活用してください。



## 株式会社関電工の敷地を購入

青山学院は、相模原キャンパス東側の角地にある株式会社関電工所有の土地1,343㎡(約406坪)を購入。相模原キャンパスの一部として利用される予定です。



### 相模原キャンパスとスクーンメーカー寮の住所

相模原キャンパス  
〒229-8558 相模原市淵野辺5丁目10番1号  
スクーンメーカー寮  
〒229-0006 相模原市淵野辺5丁目10番3号

# 新規交換留学協定校について

このたび新たに8校が、本学の交換留学協定校となりました。本学が海外の協定校を決定するにあたっては、いくつかの基準があります。まず重視しているのは、相手の大学が「質の良い教育を提供し、本学の学生を派遣するために適切な学習環境を有しているか」ということです。さらに「日本語を学ぶ学生がいるか」「両大学の学事暦が適合するか」といった点も考慮されます。

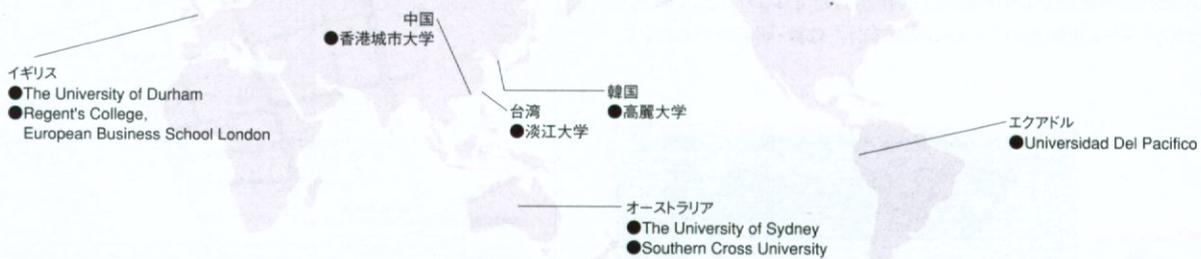
また、第二外国語として開講しているにもかかわらず、その言語が使われている地域に協定校不在というケースがあり、こうした地域に新しく協定校を開拓することも急務です。今回、新しく協定校となったエクアドル・パシフィコ大学は、スペイン語圏協定校の第1号となり、1月に行われた

派遣留学生募集では、募集人数を上回る応募者がありました。

海外大学との協定締結は、相手校のイニシアチブによることもあります。本学教員による紹介、学生の要望・ニーズを考慮した上で、本学からの働きかけで実現することもあります。国際交流センターでは、今後も新規協定校の開拓に力を注いでいく予定です。留学に関心を持つ学生のみならず、ご意見・ご要望をお待ちしています。



エクアドル・パシフィコ大学学長と佐川和茂国際交流センター副所長



## 国際マネジメント研究科 定員変更申請が認可

国際マネジメント専攻修士課程(専門大学院)は、高度専門職業人養成の時代的要請に応えるために30名の入学定員増を申請し、2003年4月より入学定員100名(収容定員200名)に定員変更が認可されました。また、1年制コース、長期在学コースを新設。教育方法の弾力化やカリキュラムの一層の充実を図り、専門大学院として特色ある教育を展開していきます。

## 新役職員紹介

総合研究所長  
佐伯 胖 (文学部教育学科教授)  
佐伯胖教授は2003年3月末日をもって任期満了のところ、引続き同氏が総合研究所長に再任された。任期は2003年4月1日より2年間。



青山学院総局長  
宗像 知機

福本輝昭前学院総局長は2003年2月6日付で定年退職のため、後任として2月7日より宗像知機が学院総局長に就任した。



大学事務局長  
岸 實

宗像知機前大学事務局長は2003年2月7日付で学校法人青山学院総局長に就任のため、後任として同日より岸實が大学事務局長に就任した。

## 2003年度 首都圏父母懇談会

父母懇談会は、大学後援会事業の一環として、大学の近況をご父母の皆様にお知らせするとともにご子女の大学生活等についてのご相談等をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に実施しています。

首都圏在住の2・3年生のご父母を対象とした父母懇談会の日程は、右表を予定しています。対象の方には4月下旬以降に改めてご案内いたします。また、地区父母懇談会の日程は次号でお知らせします。

【問い合わせ先】 庶務部学長事務室(父母懇談会担当)  
TEL. 03-3409-7955

東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県にお住まいのご父母を対象

対象学部・学年	開催日
法学部 2・3年生	5/24(土)
国際政治経済学部 2・3年生	5/31(土)
経済学部/経済学部第二部 2・3年生	6/14(土)
経営学部/経営学部第二部 2・3年生	6/21(土)
文学部/文学部第二部 2・3年生	6/28(土)
理工学部 2・3年生	10/11(土)

※日程が変更になる場合があります。



# アドバイザー・グループ登録のご案内



学生部長  
武藤 元昭  
(文学部日本文学教授)

アドバイザー・グループ(以下、アド・グル)は、学部・学科の枠を越えた学生が集い、専任教員が担当するアドバイザーを囲んで、心の交流を図る制度です。青山学院大学の一員であることを実感するとともに、教員の人間性に触れることができる点にも魅力があると言えるでしょう。参加は強制ではなく、毎年、自主的に学生が登録するシステムになっています。テニスやスキー、勉強会、ボランティア活動など多種多様な分野があり、卒業後もアド・グルで知り合った仲間同士が“同窓会”を開いている例もめずらしくありません。

我々にとって何が一番の財産かと言えば、それは人間関係だと思います。大学

で築いた幅広い人間関係は、社会に出てから生きてきます。私自身、学生時代には体育会のテニス部に所属していましたが、他学部の学生との交遊を通して、自分とは異なる考え方や価値観を知る機会に恵まれました。当時の仲間たちとは、いまだに付き合いがありますが、それぞれが異なる分野に進み、自分が住む世界にはない話題を聞かせてもらえるので、視野を広げる意味でも非常に役立っています。そうしたことを在学中から経験すれば、人生観が広がり、勉学意欲も一層高まることでしょう。

学生生活をより豊かに、有意義にするためには、多くの人たちとの触れ合いが大切です。せっかく青山学院大学に入学したわけですから、自分もその大きなサークルの一員であることを意識して、学部・学科、学年・年齢の枠を越えた交流を積極的に図ってください。そして、そのためにアド・グルを有効に活用してほしいと思います。

## 体育会創設50周年記念式典行われる

2002年11月23日(土・祝)、体育会の創設50周年を記念し、青山キャンパスにおいて記念行事が行われました。

当日は、ガウチャー記念礼拝堂において開会礼拝・開会式、チアリーディングの演技・記念講演会が行われました。講演会の講師には、(財)日本サッカー協会で日本女子代表監督を務める上田栄治氏(本学法学部卒)をお迎えし、『学生スポーツを考える』というテーマで、アジア大会での映像を交えながらわかりやすく講演していただきました。講演会終了後、場所を記念館に移し、バレーボール部(女子)と卓球部による記念試合を開催。ひき続き青学会館において記念祝賀会が開かれ、その席上で、体育会の発展に寄与された初代体育会執行委員長熊手正憲氏をはじめ大学後援会、体育会OB連合会等6団体に、大学より感謝状が

贈呈されました。また、各界で活躍しているOBの方々のメッセージが披露されたことや、昨春ヤクルトスワローズに入団した石川・志田両選手が駆けつけてくれたことで、会は一気に盛り上がりを見せました。体育会学生本部長の今北普朗君(国際政治学科4年)は、『今回の50周年記念をきっかけに、体育会が益々発展することを期待します。』と力強く語り、記念行事は無事幕を閉じました。

学業とスポーツの両立はもちろん大変なことではありますが、体育会の未来に大きな希望を抱き、より一層精進して行ってほしいと思います。



## Club & Circle Information

問い合わせ先  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 青山学院大学学生部学生課

Tel 03-3409-8111 (内線12163、12164)

2003年度主要活動予定(2003年4月~5月) \*主な文化連合会・体育連合会の活動予定 ※下記大会・演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

### アイスホッケー部

◎第52回関東大学選手権大会(4月~5月) 於:東伏見アイスアリーナ 他

### 空手道部

◎東日本大学空手道選手権大会(5月)

### 剣道部

◎第49回関東学生剣道選手権大会(5月) 於:日本武道館

◎第35回関東女子学生剣道選手権大会(5月) 於:東京武道館

### 硬式野球部

◎東都大学野球春季リーグ戦(4月~) 於:神宮球場

### サッカー部

◎関東大学サッカー春季リーグ戦(4月~5月)

### 柔道部

◎東京学生柔道優勝大会(5月) 於:日本武道館

### ソフトテニス部

◎東都大学春季リーグ戦(5月) 於:中央大学

◎関東学生春季リーグ戦(5月) 於:千葉県白子町

### 卓球部

◎春季関東学生リーグ戦(5月) 於:代々木第二体育館

### バドミントン部

◎関東学生春季リーグ戦(4月~5月) 於:日体大健志台体育館

### バレーボール部

◎春季関東大学リーグ戦(4月~5月)

### 陸上競技部

◎関東学生陸上競技対抗選手権大会(5月)

### レスリング部

◎全日本JOC選手権大会(4月)

◎東日本学生リーグ戦大会(5月)

### アナウンス研究会

◎発表会(5月) 於:青山学院大学内

### オーケストラ部

◎第80回定期演奏会(5月26日) 於:昭和女子大学人見記念講堂

2002年度活動報告(2002年12月~2003年1月) \*主な文化連合会・体育連合会の活動内容報告

### ◎陸上競技部

第79回箱根駅伝(1月2・3日) 関東学選抜チーム出場

佐藤良仁(済2)3区・区間10位

### ◎第二合唱部コール・フロッシュ

創部50周年記念第37回定期演奏会 12月8日 於:青学講堂

### ◎オール青山メサイア公演

12月23日 於:青学講堂

オーケストラ部、オラトリオ・ソサエティ合唱団、グリーンハーモニー合唱団、第二

合唱部コール・フロッシュ、聖歌隊、第二部聖歌隊、女子短期大学聖歌隊

### ◎グリーンハーモニー合唱団

第48回定期演奏会 12月10日 於:昭和女子大学人見記念講堂

## 2003年度公開講座 （※2003年5月～7月開催分を掲載しています。）

教育・研究の成果を広く社会に開放し、生涯教育や地域文化の向上をバックアップすることを目的とした公開講座。大学としての社会的貢献を果たしていくため、1990年以来多彩な講座を開講しています。

2003年度の本学主催の講座については青山キャンパス、相模原キャンパスでの開催の他、各地区（水戸市、静岡市、新潟市）での公開講演会を予定しています。また、渋谷区との共催による講座（青山キャンパス）や相模原市の市民大学としての講座（相模原キャンパス）も開催する予定です。テーマはいずれも今日関心をもたれている諸

問題について取り上げています。

各講座の内容・申込方法等詳細を掲載した『2003公開講座GUIDE BOOK』は4月初旬に完成予定です。

ご希望の方は下記までお問い合わせください。

### 問い合わせ先

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
 青山学院大学庶務部学長事務室（公開講座担当）  
 Tel 03-3409-7955  
 詳細については、大学ホームページをご覧ください。

青山学院大学（前期）キリスト教と現代社会 信仰への誘い—（青山キャンパス開講 15:00～16:30）		
6/14（土）	エレミヤ：福音を待望する預言者	大島 力（理工学部教授）
6/21（土）	イエス：キリスト教の揺籃	鈴木 有郷（文学部教授）
6/28（土）	パウロ：初代キリスト教の伝道者	東方 敬信（経済学部教授）
7/5（土）	ルター：宗教改革の精神	小原 信（国際政治経済学部教授）
7/12（土）	アウグスティヌス：時も神の創造だ	泉 治典（東洋大学名誉教授）
青山学院大学・渋谷区共催（前期）日本再生への課題—グローバル・コンテクストの中で—（青山キャンパス開講 15:00～16:30）		
5/10（土）	日本企業再生の条件—ジャパン アズ ナンバーワンは復活するか—	港 徹雄（国際政治経済学部教授）
5/17（土）	環境立国を目指して—「環の国」の知恵と技の活用—	太田 宏（国際政治経済学部教授）
5/24（土）	日本にとっての国際経済関係—その恩恵・コストと国際ルール—	小宮 隆太郎（国際政治経済学部教授）
5/31（土）	アジア・太平洋とどう付き合うのか	菊池 努（国際政治経済学部教授）
6/7（土）	日本を興すもの	小原 信（国際政治経済学部教授）

\*講座テーマ等変更が生じる場合があります。

## 就職関係行事のお知らせ

青山キャンパス						
行事	対象学年	日程	時間	場所	備考	
公務員採用説明会	全学年	4月上旬	未定	未定	各種公務員の採用担当者による説明会	
職業興味検査	1・2年生（第二部）	5月下旬	未定	未定	無料	
相模原キャンパス						
行事	対象学科・専攻・学年	日程	時間	場所	備考	
第3回就職ガイダンス	電気電子工学科 4年生	4/3（木）	15:00 } 15:30	E206教室	「就職の手引」を必ず持参のこと	
	電気電子工学専攻 2年生			E303教室		
	経営システム工学科 4年生			F308教室		
	経営工学専攻 2年生		16:30 } 17:00	E203教室		
	物理学科 4年生・物理学専攻 2年生			E205教室		
	化学科 4年生・化学専攻 2年生			E104教室		
	機械創造工学科 4年生・機械工学専攻 2年生					
企業説明会	理工学部全学科 4年生・理工学研究科全専攻 2年生	4/7（月）～11（金）			時間、場所等詳細については、掲示板参照のこと	

※追加・変更等もありえますので掲示板にて確認してください。

## 青山学院大学教育ローン

### 【特徴】

1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 担保・保証人は不要です（学生本人が融資を受ける場合、銀行によっては保証人が必要になります）。
3. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります（在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます）。
4. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振込まれます。
5. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

### 【利用資格】

本学学部生・院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。

### 【必要書類】

1. 資金使途確認資料……学費納付書等
2. 本人確認資料………印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか一通
3. 所得確認資料………所得証明書、源泉徴収票等のいずれか一通

### 【注意事項】

1. 契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
2. 融資は学費（授業料他）等の教育資金に限ります。
3. 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。
4. 年間学費相当分の借入れを希望する場合は、前期分学費納付用紙・後期分学費納付用紙が必要です。この場合、青山キャンパス所属の学部生は学生課、院生は大学院事務室、相模原キャンパスの学部生・院生はスチューデントセンターへ申し出てください。必要な学費振込用紙を発送いたします。

### 【提携銀行】

三井住友銀行 渋谷支店お客様2課 TEL 03-3463-0102  
 みずほ銀行 渋谷中央支店ローン担当係 TEL 03-3462-0315（旧第一勧業銀行）  
 みずほ銀行 渋谷支店ローン担当係 TEL 03-3400-5151（旧富士銀行）  
 りそな銀行 渋谷支店ローン担当係 TEL 03-3498-3211  
 UFJ銀行 青山支店ローン担当係 TEL 03-3409-3211  
 横浜銀行 渋谷支店ローン担当係 TEL 03-3463-2151  
 （融資の申し込みは上記銀行の全支店で受け付けますが、学生本人が融資を受ける場合はUFJ銀行のみ青山支店に限ります。）

# 幼児の心の教育

佐伯 胖

文学部教育学科教授



1939年生まれ。慶應義塾大学工学部管理工学科卒業、同大学院工学研究科管理工学専攻修士課程修了、米国ワシントン大学大学院心理学専攻博士課程修了、Ph.D.(心理学博士)。東京理科大学理工学部経営工学科助教授、東京大学教育学部学校教育学科助教授、同教授を経て、現在青山学院大学文学部教育学科教授。同大学総合研究所所長。

## 幼児にも他人の「心」はわかる

一般に、幼児は5、6歳になるまで、他人が自分とは異なる考え(信念や期待)をもっていることが理解できないとされています。それでは4歳以下の幼児には他人の「心」がわからないのか、というとそんなことはありません。生後2日目でも、他の赤ちゃんの泣き声に「つられて」泣くし、2歳にもなると、他の赤ちゃんが何かに嫌がって泣いていると、なぐさめようとして、背中を軽くたたいたり、抱きしめたり、ぬいぐるみを与えようとします。2歳前後の幼児の場合、親の目を盗んで(物陰に隠れて)「イケナイコト」をしたり、それを見つかけられると「照れかくし」に笑ったりさえます。つまり、何かを「知っている」「覚えている」というようなことについての、「他人の頭の中」を推察する知的能力としての他人の「心」の理解は、従来の研究のとおり未発達なのです。しかし、自分とかわかる情緒的な反応を含んだ「他者のキモチ」の理解は、かなり早い時期から幼児にも十分可能だといえるでしょう。

## 子どもは「善くなろう」としている

すべての子どもは、自分の周囲の世界をただ「知ろうとしている」だけでなく、自ら「善くなろうとしている」。慶應義塾大学名誉教授の村井実氏によると、このことは以下のことを意味します。

- ① 子どもは、無矛盾性(ものごとの一貫性)を自分で納得しようとする。
- ② 子どもは、相互性(他者と「分かち合うこと」)を喜びとする。
- ③ 子どもは、効用性(便利、有効、効率)を追求する。
- ④ 子どもは美(美しいもの)を求め、作り出そうとする。

以上を無視して、子どもにただ知識を与えようしたり、特定の能力を身につけさせようとするのでは、子どもの「心」は育ちません。また、

子ども自らが一貫性をつらぬくこと、他者と信頼関係(相互性)を保つこと、なんとかして「ウマクやりたい」といろいろ試みることを、子どもなりに「美しいもの」を生み出そうとすることを認め、励ましてあげるべきで、あれこれ干渉してつぶしてしまうことは、絶対に避けなければなりません。

## 遊びの重要性

「善さ」を求める活動は、遊びです。遊びとは、その活動自体が充実し、何か別の目的の手段ではなく、それ自体をより豊かに、より善いものにしてという活動を指します。

遊びの中で、子どもはものごとくに「熱中」という経験をし、自らの耐えられるコンフリクト(葛藤)の範囲を広げます。つまり、子どもにとって、遊びは、きわめて真剣な「探求活動」であり、新しい、より「善い」自分づくりなのです。遊びを通して、子どもは「作品」(他人に見せたい、残したいもの)をつくり、自ら学ぶこと、納得することを知ります。ひとたび「納得する」喜びを知ると、子どもは「納得できない」事態に直面したとき、なんとか納得がいくまで、自分で探求し、試みます。

## YOU的他者の必要性

このような「善さを求める心」を育てるためには、YOU的他者の存在が不可欠。すなわち、わたしを「あなた」と呼んでくれる他者、わたしを「かけがえのないひと」としてくれる人です。わたしの「存在」そのものを肯定し、わたしの背景、わたしの主張の根拠、理由、必然性に耳を傾けてくれる他者が必要なのです。このYOU的他者は、子どもとともに、文化的実践(they世界)を見て、「知」そのものに随伴する「よろこび」、「悲しみ」、「怒り」を「ともにする」(=情緒を「知」から切り離さないで、鑑賞する)存在です。そして、子どもの「納得」(腑に落ちる=情緒のレベルに響く「知」)を大切にし、ほ

んどうの世界(未知)への「あこがれ」と「好奇心」を駆り立てます。

## 早期教育の危険性

早期教育は「遊び」なき学びを強制することで、自らの無矛盾性、相互性、効用性、そして美の発見と納得の経験を奪い、「未知性」へのあこがれと挑戦(センス・オブ・ワンダー)を剥奪します。すべては「教えられる=与えられる」ものとなれば、「あなた」とよびかけてくれるYOU的他者が欠落し、すばらしいもの(文化として価値あるもの)を努力し、協力しあい、知恵をしばり、失敗を乗り越えて、「作り出す」ことがありません。

## 子どもの「心」を育てる保育

保育において、もっとも大切なことは、保育者と幼児が1人称-2人称の関係でかわることです。「みんな」ではなく、「あなた」にはたらきかけ、「先生」ではなく、「わたし」として子どもの前に立つことです。

つねに、新しい世界と「かわりあうこと」を育てましょう。「無関心」こそが最大の敵です。他人の喜びを喜びとし、他人の悲しみを悲しみ、他人の苦しみを苦しむ。この関係が、保育者と子どもの間で成立すれば、子ども同士でも成立するようになり、保育者間でも成立するようになります。それこそが、子どもの「心」を育てる保育です。



## 2003年度オープンキャンパス等開催日程

※予約不要・入退場自由。

開催内容など詳細については、大学ホームページをご覧ください。

### AGU受験相談会 in さがみはら

場所:相模原キャンパス 6/7(土) 10:00~17:00  
 本年4月に開学する相模原キャンパスで受験生とその保護者を対象にした進学相談会を行います。

### オープンキャンパス

場所:青山キャンパス 7/20(日) 10:00~17:00  
 9/13(土) 10:00~17:00

### 社会人のためのオープンキャンパス

場所:青山キャンパス 7/26(土) 14:00~17:30

### 高校1・2年生のための大学説明会

場所:青山キャンパス 11/9(日) 10:00~16:00  
 高校1・2年生の早期より、本学への進学を希望している高校生とその保護者を対象にした大学説明会を行います。

## 2003年度一般入学試験出願者数

2003年度一般入学試験は、昼間部・第二部(夜間部)すべての出願が終了しました。出願者数は、昼間部41,366名、第二部(夜間部)2,327名、合計43,693名(昨年度41,032名)となり、3年連続の出願者増となりました。なかでも昼間部においては、昨年度より2,429名の増加となり、2001年度4,774名、2002年度3,298名に引き続き、3年間で合計10,501名の出願者増となりました。また、昼間部で40,000名を超えたのは、1995年度以来8年振りのこととなります。

なお、2003年度一般入学試験の出願者数の詳細については、大学ホームページにて公開しています。



2003年度一般入学試験

## News Index 2002.12~2003.2

### WEEKLY AOYAMAのタイトル紹介

2002年12月上旬~2003年2月中旬までの主なタイトルを掲載しています。

### 02年12月

- 文学部史学科主催公開講演会「渤海を巡る」
- 世田谷キャンパスお別れ会開催
- 青山キャンパスからNHKニュース「おはよう日本」放映
- ガウチャー記念礼拝堂「パイオルガンコンサート」
- 「第38回オルガン演奏会」
- 文学部教育学科横山徹助教授が第56回二紀展で文部科学大臣奨励賞受賞
- 経済学会主催講演会「グローバル化時代における中小製造業の現状・課題・展望」
- 厚木キャンパスお別れ会開催
- 経営学部主催公開シンポジウム「WTOとFTA(自由貿易協定)」

### 03年1月

- 経済学部三和良一教授最終講義「資本主義はどこにいくのか」
- 国際政治経済学部池井 優教授最終講義「戦後日本外交の展開とスポーツ」

- 国際政治経済学部小宮隆太郎教授ならびに21世紀COEプログラム研究グループに表彰状を授与
- 国際学術シンポジウム「国際都市としての渋谷・原宿・青山の将来像」開催
- 軟式野球部、東日本軟式野球選手権大会で優勝
- 馬術部、第45回全日本学生賞典総合馬術競技大会で団体2位
- 「第二部スプリング・カレッジ」

### 03年2月

- 理工学部西澤聖哉君が工業英検3級において文部科学大臣奨励賞を受賞
- スキー部浦木隆太郎君が全日本学生スキー選手権大会で2位入賞



国際学術シンポジウム「国際都市としての渋谷・原宿・青山の将来像」

### 歴代院長とその時代



ほんだ よういつ  
**本多庸一**  
 第2代院長(1890~1907年在任)

弘前に生まれた本多は弘前公会(後の弘前メソジスト教会)を創立し、青森県議会議員・議長を歴任。米国遊学の際、列車禍を奇跡的に逸れたことを機に教育と宗教に生涯を捧げることを決意し、ドルー神学校に学びました。1890(明治23)年に帰国後、東京英和学校校長に就任しましたが、この前後から国粋主義が台頭し、キリスト教学校に対する風当たりが強まりました。そのような状況に加え、東京英和学校自体の教育内容も複雑になり、必ずしも英和の名に適さなくなったことから、1894(明治27)年、青山の地名をとって「青山学



◀1894(明治27)年以降の青山キャンパス



青山学院福音伝道隊1901(明治34)年

院」と改称しました。本多は在任中、帝国憲法・教育勅語の発布による国家主義陣営の攻撃に対して、キリスト教学校代表の中心として護教の論陣を張りました。特に1899(明治32)年、文部省訓令第12号(官立学校と同じく私立学校における宗教上の教育と儀式を禁じたもの)公布に際しては政府と忍耐強く折衝し、数年の後、実質的に権利を回復しました。

## AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々に送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュース

を簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けております。更に「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内のAGUニュース専用スタンドにて配布しています。なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取ください。

### 事務取扱窓口

青山キャンパス→学生部厚生課  
 相模原キャンパス(4月1日以降より)

→チューデントセンター・学生生活グループ

AGUニュースのバックナンバーはこちらをご覧ください。

<http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>  
 広報入試センター広報課●2003年3月10日発行●